

第1回 糸魚川市廃棄物減量等推進審議会 会議抄録

<主な質疑・意見>

各項目について、資料に基づき説明し、その後委員から質疑・意見をいただいた。

基本計画の概要（案）について

質疑・意見なし

スケジュールについて

質疑・意見なし

アンケート調査の内容（案）について

委員）アンケートは、全世帯を対象として実施するのか？

事務局）1,000世帯を抽出して実施する。人口規模等から考慮すると、これだけの数があれば正しい結果が出ると言われている。

委員）問3の出すごみの量の質問で、45入りの袋やレジ袋という表現はわかりにくいのでは。具体的な袋のサイズを記載した方がいいのではないか？

事務局）わかりにくい部分もあると思う。検討させていただく。

委員）レジ袋にも色々なタイプのものがあるので、サイズ表記は慎重にお願いしたい。

委員）対象の世帯数が少なすぎるのではないか？せめて全世帯数の1割くらいは必要ではないのか？

事務局）一般的には対象世帯数は5%あればよいと言われている。

委員）1,000世帯を無作為に抽出するとのことだが、高齢者などの場合、字を読むことが大変であったり、内容を理解するのが大変であったりして、回答率が下がるのではないか？

事務局）活字の大きさには配慮している。

委員）内容的にも理解するのが難しいところもあると思うので、配慮願いたい。

事務局）このアンケートとあわせて環境基本計画に関するアンケートも実施する予定であるが、同様に無作為抽出で男女500ずつ1,000人を対象としている。

できるだけ多くの人から回答いただきたいと考えているが、過去の例などから50%程度の回収率を見込んでいる。

委員) アンケートの項目は、ひと言でいって長いと思う。私見ではあるが、問10以降の有料化に関する質問については、切り離してはどうか? 15問は長いと思う。

関連するが、事業所のアンケートは逆に短い。何か理由があるのか? また、回答の中に「わからない」という選択肢があるが、必要ないと思う。

事務局) 検討したい。

委員) 事業所にも色々な業種があるが、問3のごみの排出量について、一般用と同様にレジ袋などの単位で回答するようになっている。建設業などはこういった単位でごみの量が把握できるのか?

事務局) 産業廃棄物を除いた一般廃棄物の排出量をお聞きするものなので、問題ないと考えている。ただ、レジ袋や45の袋という表記がわかりにくい面もあるので、表記の方法について内部で検討したい。

また、有料化を切り離してということであるが、大切な部分であるので、アンケート全体の長さを検討する中で入れていきたいと考えている。

委員) このアンケートは、現状を聞く中で、その結果をもとにどうしていくかを考えるための資料となるものだと思う。その点では有料化を実施していない本市において、有料化に対する市民の考えを聞く機会として大事なものだと思う。

事務局) 施策を考えていく中で、市民の意見を聞きたいということで実施するものである。アンケートの中身について、忌憚のないご意見をいただきたい。

委員) 有料化といってもすぐにイメージがわからないと思うので、既に有料化している自治体の実際の負担額などを参考資料としてつけることはできないか?

有料化については、1世帯いくらということではなく、ごみ出し用の袋を1袋いくらで買うかという認識でよいのか?

事務局) まだその点については全く決めていない。ただ、20市中15市が有料化しており、国の方針としても有料化が打ち出されている中で、本市においても

大きな課題であり、考えていかなければならないということである。

どのような方法でいくらでということについては白紙の状態である。それを考えていくためにも今回のアンケートで市民の皆様の意向を伺いたいというものである。

委員) レジ袋については、実際には購入する商品の価格に付加されていて有料であるが、消費者はタダでもらっているという認識でいる。そういった点についても有料化とあわせてきちんと説明してほしい。

事務局) 非常に難しいことではあるが、ごみの問題に限らず、サービスを受ける人が費用を負担するという受益者負担について、市全体として議論しているところである。どうすれば市民に納得してもらえるか考え、きちんと説明していきたい。

委員) ごみ処理の経費に1世帯当たり年間32,000円の税金が使われている。ごみが減り、受益者負担がされれば、どれだけかは他のところにまわせる。その辺を前面に押し出した方が、意識が高まるのではないか？

有料化については、袋を買ってもらうとか、シールを買ってもらうとか、他の自治体の例を示した方がわかりやすいのではないか？

事務局) ごみの減量化と有料化をきちんと分けて説明する必要がある。減量化されたからといって有料化されないわけではないと思う。

委員) アンケートの内容については、誤って受け取られることのないよう配慮し、アンケートの結果に対し、その後の政策が違った方向になったと思われることのないようにしてほしい。

今回のアンケートの中で重要な項目がごみの有料化だと思う。アンケート結果を政策に生かせるよう、市民の意見がはっきりと出るようなシンプルな聞き方が必要だと思う。例えば、問10では、どちらかといえば賛成、どちらかといえば反対という選択肢があるが、わかりにくいのでなくしてはどうか？

また、問11では同じような選択肢がいくつもある。選択肢を整理して、答える人がはっきりと選べるような形にしてほしい。

また「わからない」という選択肢があると、すぐにそれを選んでしまう場合があり、それが一番悪いことだと思う。確かにわからないこともあるかと

は思うが、安易に「わからない」という答えに逃げ込むことのないように配慮願いたい。

また、問 14 の負担額について、どの程度の負担なのか想像がつきにくい。何か目安になるものを示してほしい。

事務局) 減量化と有料化には密接な関係があると思うが、この審議会の最大の目的は減量化です。減量化の質問についてもご意見をいただきたい。

このアンケート結果をもとに事務局が計画案を作って、それを審議するという流れになる。

委員) 有料化は重要な問題だが、今日の時点では先行しすぎている感がある。問 14 も選択肢が多すぎるような気がする。もう少し絞ってもよいのではないか？

委員) 問 14 がわかりにくい。ゴミ袋 1 枚いくらが適当かを聞いた方がわかりやすいと思う。

事務局) 皆さんから有料化について具体的な内容でご意見をいただいている。正直なところ有料化についてもスケジュールに入れていかなければならない状況ではあるが、今回のアンケートでは、市民の皆さんがどのように考えているか、現状をどのように捉えているか、分別方法はどうかといったことを聞くことが主である。まだ 1 枚いくらとか、そこまではいっていない状況である。

もし、実施するとなれば、現在の処理経費のうち市民の皆さんからどの程度負担してもらうかということも考えていく必要がある。また、近隣の上越市、妙高市などの状況も問題になってくると思うが、まだそこまでの具体的な分析は行っていない状況である。

委員) 要するに有料化の前段としてのアンケート調査と理解してよいか？

事務局) 皆さんとしてはどうですかということを知るためのアンケートである。

委員) そういうことであれば、細かいことを聞く必要はないのではないか？ いいか悪いかだけを聞けばよいのではないか？

事務局) 皆さんの話を聞いていると、そう思うところもある。有料化についてはま

だ入口の段階であり、その中で市民の皆さんの考えを聞きたいということであるので、わかりやすいようシンプルにしていきたい。

アンケートなのでどのような結果が出るかわからないが、問 10 で反対であると答える人が多くなれば、それを認識して説明会をより細かく開くなどの対策を考えるなど、そういう方法を考えるためのアンケートである。反対が多くなっても、それはそれとして捉えればよいと思う。

アンケートの内容について、ほかにご意見等がある方は、8月8日(金)の正午までに連絡をいただきたい。

14時52分から15時00分まで休憩。

系魚川市のごみ処理状況(ごみ処理量及びごみ処理費用の推移)

委員)ごみ集積施設設置費補助について、制度がわからなくて申請できなかった。事務局)合併後の平成17年度に制度ができた。1箇所5万円以内で補助を行っている。毎年、各地区の区長さんに設置状況の調査を行い対応している。今後は活用いただきたい。分別区分も多くなってきているので、老朽化に伴う買い替えなど設置予定がある場合は環境対策室に知らせてほしい。

委員)事業所が設置する場合も補助が出るのか?

事務局)家庭ごみの集積所を対象としており、補助要綱では自治会、町内会など住民の皆さんが設置するものに限っている。

委員)事業所ではきちんとした集積所を設置しないためカラスなどに荒らされ散らかっており、補助があれば設置するかと思い聞いてみたものである。

事務局)事業所のごみについては、法律でも事業者自らが処理することとなっている。地域によっては地域の集積所を事業者を利用させているところもあるが、原則は事業者自らが処理しなければならないことから、事業者への補助は行っていない。

委員)家庭でインスリン注射を行った場合の注射器等の処理はどうすればよいか?

事務局)病院へ返却してほしい。

委員)ごみ処理費用について、中間処理費が増え、職員人件費が減っている理由
は何か?また、それぞれの経費の内容は?

事務局)ごみ処理費用のうち、収集運搬費は皆さんが集積所に出されたごみを運搬
する経費であり、ここ数年ほぼ横ばいで推移している。

中間処理費は、分別されて集められたペットボトルや缶などをきちんと処
理するための費用や、清掃センターでのごみ処理にかかる費用である。

最終処分費は大野地区にある一般廃棄物の最終処分場において埋め立て
ごみの処理をするための費用である。

中間処理費が増え、職員人件費が減った理由については、平成19年度か
ら清掃センターでのごみ処理の大部分を日立に委託したため、その分職員が
減り、委託料として日立に支払う分が中間処理費に計上されていることによ
る。

平成20年度新潟県ごみ減量化・再資源化状況

質疑・意見なし

清掃センターの概要

質疑・意見なし

その他

次回(第2回)審議会は、11月中の開催を予定しており、大野埋立地、信越リ
サイクルセンターの2ヵ所の視察を行い、視察終了後は、アンケートの集計結果、
ごみ処理の現状と課題等について、審議することになった。

(具体的な日程は、正副会長並びに事務局で計画する。)